

言葉

中央市立玉穂中学校三年 今野 陽菜

私は、家族と話しをする事が大好きだ。夕飯の時間はもちろんの事、就寝前など家族が全員居る時に会話をする機会が多い。今日のあった出来事をよく話すが、辛かった事、悲しかった事も一人でため込まずに会話するのが我が家の習慣だ。家族との会話は自然体で話す事ができ、何より何でも相談できるので、心がほっとする時間となっている。毎晩考えさせられる話題が出てくる中で、私は兄のある言葉に注目した。

「言葉ってすげえよなあ」

そんな一言だったけれど、なぜか私には深く考えさせられた。

私にとっての言葉とは、人を元気付けたり、相手に気持ちを伝える事だ。兄にとっての言葉とは、よりよい関係を築くことのできる唯一の手段だそうだ。私は、お互いの気持ち、思っている事を伝え合える「言葉」とは便利であると思う。一方で表現の仕方に頭をよく悩ませる事もある。そこで、普段何気なく使っている言葉や会話の持つ意義を考えてみた。

先日、嫌がらせにより私と同じ年齢の女の子が自ら命を絶ったという報道を見た。具体的な嫌がらせとしては、暴言だったそうだ。つまり、言葉による暴力という事だ。今まで暴力とは、殴る、蹴るなどといった体に直接、傷を付ける行為の事を指していると思っていた。しかしそれだけでなく、精神的な暴力も存在している事を知った。それも立派な「いじめ」だ。詳しく調べてみると、精神的な暴力から自殺につながるケースの方が多いという事が分かった。私はそのデータに深く共感できた。なぜなら、直接的な暴力と精神的な暴力にはある決定的な違いがあるように思うからだ。それは第三者からの見え方の違いだ。直接的な暴力は第三者からも傷が見えやすいと思う。しかし精神的な暴力は、傷が全くといって良いほど見えない。だから最近のいじめは言葉の暴力が増えているのだろう。第三者から見えないからといって、自分のストレスをいじめで解決するのは違う。言葉で傷ついた傷は、そう簡単に治るものではない。言葉は使い方により確実に凶器になりうる。

そもそも言葉は、人を傷つけるために存在しているのではない。近年の世界では、言葉を簡単に考えすぎている人が多いと思う。言葉の使い方によっては、相手を死に追い詰めてしまう事もある。いま一度、言葉の使い方を見直すべき

ではないだろうか。

最近は、ネット上での誹謗中傷で自殺を考えてしまう人も多くいる。ネット社会と言われている現代。それに伴って、スマホ利用者も増えている。小さな子どもから高齢者まで、幅広い世代が活用している。ネットでも誹謗中傷が行われている事を考えると、言葉はどこへでも悪い方向へ進み続けていると感じてしまう。ネットには国境がない。そのため顔の見えない相手に、悪口や脅しを書いている人がたくさんいる。この先もっと、そのような行為が増えていく。なぜこのような書き込みをするのか私には、全く理解できない。誹謗中傷のニュースを見るたびに、ある一つの疑問が浮かんでくる。「画面の向こうで傷ついている人がいる姿が想像できないのか」という疑問だ。ネットに書き込む前に考えてみたら分かる事だと思う。ネットへの書き込みは一生消えない書き込みとなる。そのために、永遠に残り続けるのだ。いつかは世間に見つかり、逮捕される可能性だってある。書き込んだ側も、書き込まれた側も嫌な思いをするのに違いない。嫌な思いをするのだったら、良い思いをした方が良いに決まっている。ネットでも、普段の会話でも言葉は重要な役割を果たしている。

私たちの日常で必要不可欠である「言葉」。それは使い方を誤れば、人を傷つける凶器へと一変する。しかし、世界中の人と思いを伝え合う事のできるものは言葉しかない。口から発するものだけではなく、点字や手話も大事な言葉である。障害を持っている方とも、唯一繋がる事ができるのが言葉だ。間違えて人に誤解されてしまう事を言った時でも、正しく言葉を使う事ができれば、良い人間関係が築けると思う。

私はこれからも言葉の使い方には、深く注意して生活していきたいと思う。誰もが言葉で良い気持ちになれる環境を目指して、身近なところから出来る事をしていきたい。

言葉とは、簡単に人の「人権」を奪う事のできる恐ろしいもの。そのような考えを持つ人が増える事を望んでいる。よりよい世界を作るには「良い言葉」から。